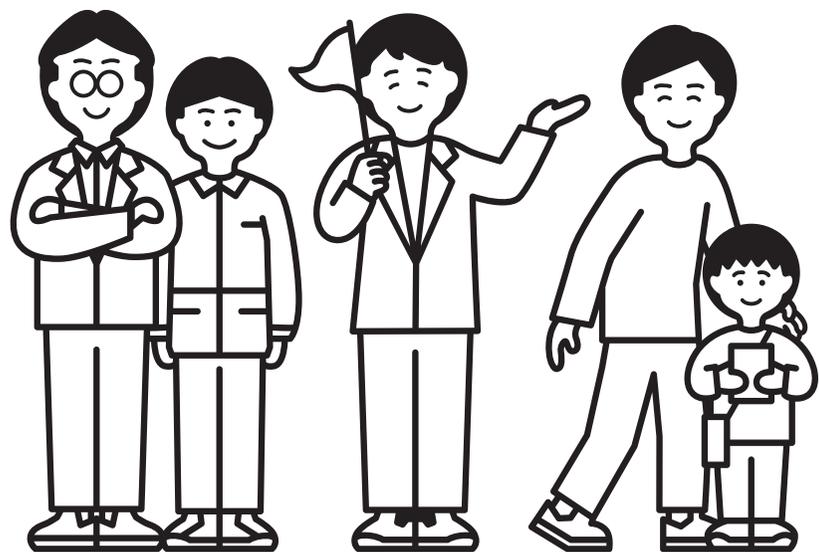


つくり手とつかい手をつなぐ  
消費者教育プログラム

# SDGs 調査隊

地域で取り組む実践ガイド



公益財団法人 消費者教育支援センター

令和2年度地方消費者行政に関する先進的モデル事業 | 消費者庁委託事業

本ガイドは、静岡県浜松市を対象地域に実践した「つくり手とつかい手をつなぐ消費者教育プログラム SDGs調査隊」の他地域への展開を目的とした冊子です。  
2030年までにSDGs(持続可能な開発目標)を達成するために、全国各地で特色ある取組を展開しましょう！



Sustainable Development Goals  
持続可能な開発目標

## 🔍 SDGs調査隊 地域で取り組む実践ガイド



### 🔍 入門編 知っておきたい基礎知識や調査データ

エシカル消費とは	2
サステナブル経営とは	4
地方消費者行政の役割 消費者教育の場づくり	6
地方消費者行政がつくる消費者教育プログラムの概要	8
つかい手の実態調査	10
つくり手の実態調査	12

### 🔍 実践編 プログラムの実践に向けたノウハウ

消費者教育プログラムの実践フロー	14
1 事業者を選ぶ	16
2 プログラムをつくる	18
3 準備する	22
4 実施する つかい手(消費者)のプログラム	26
つくり手(事業者)のプログラム	30
児童養護施設で実施するには	33
5 評価する	34
6 発信する	35

### 🔍 Q&A、お問い合わせ等 36





# 入門編

知っておきたい基礎知識や調査データ





## エシカル消費とは

人や社会、地域、環境に配慮した消費行動のことです。エシカル消費はSDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」を果たすことであり、目標全体を達成するカギとなります。

本プログラムを通じて、つかい手である消費者が、自身の暮らしを見つめ、取り巻く問題に気づき、その解決に向けて事業者と共に行動できることを目指します。





## サステナブル経営とは

持続可能な社会の実現に向けて、事業者が自らの社会的責任を自覚して事業活動を行うことです。消費者庁では、消費者の声を聴き、かつ、持続可能な社会に貢献する消費者志向経営として推進に努めています。作り手である従業員も、一人の消費者。つかい手としての気づきがつくり手としての責任を育み、それがサステナブル経営につながりSDGs達成を促進します。



## 地方消費者行政の役割 消費者教育の場づくり

つくり手とつかい手が自身の消費生活を振り返り、問題に気づき、解決に向けて行動するためには、消費者教育の「場づくり」が必要です。SDGs調査隊では、消費者教育を担当する消費者行政部門の出番です。関係者とのつながりをつくるコーディネーターや、地域の関係者を集めたチームの役割も重要です。



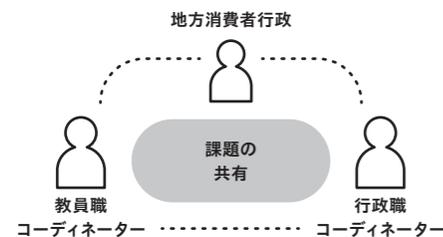
### 場づくりに向けて

- ✓ まずは予算の確保かな
- ✓ 夏休みの親子プログラムを組み替えてみる？
- ✓ あの事業者とやってみよう！



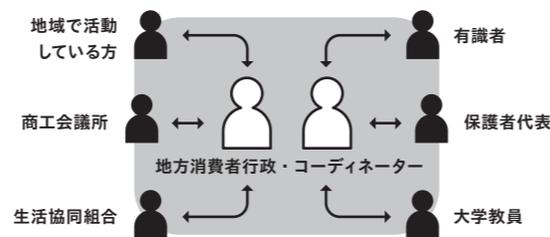
# 地方消費者行政がつくる消費者教育プログラムの概要

## step 1 立案と予算化



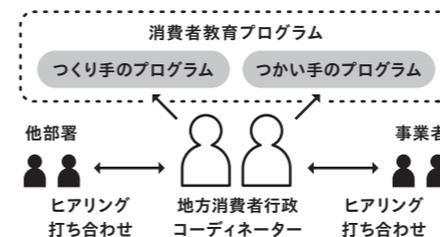
- ✓ 「SDGs」をテーマにした方策を検討する。
- ✓ プログラムの方向性を行政職員とコーディネーターで決定する。
- ✓ プログラム案を作成し予算を計上する。

## step 2 チーム結成



- ✓ 地域の関係者とチームを結成し、プログラム実施に向けて意見交換する。
- ✓ プログラムの協働先となる事業者の候補や効果的な連携方法などのアドバイスをもらう。
- ✓ 行政の事業としての費用対効果及び公共性の確保について意見交換する。

## step 3 実施



- ✓ 候補事業者の情報を得て、ヒアリングする。
- ✓ 打ち合わせを通してつくり手とねらいを共有し、実施に向けた準備をする。
- ✓ 「SDGs 調査隊」の取組を通してエシカル消費やサステナブル経営の理解を深め、これからの行動につなげる。

## step 4 評価



- ✓ つかい手とつくり手の双方に聞き取りやアンケート調査を行い、プログラムの効果と課題を明らかにする。
- ✓ 明らかになった効果と課題を検討し、次年度の方向性を見通す。

## 浜松市の事例

### Coordinator



**元行政職員のコーディネーター**  
現職時は、消費者教育の業務に携わりました。市の消費者教育推進計画達成に向けた講座やイベントの企画・実施の経験があり、庁内関係課や地域団体とのつながりを持っています。

### Coordinator



**元教諭のコーディネーター**  
現職時は市立学校に勤務し、家庭科教育研究会に所属していました。管理職経験があるので学校教育のカリキュラム編成や学校長とのネットワーク、地域人材活用などのノウハウがあります。

### チームメンバー



- 🔊 こだわりを持って生産している事業者に心当たりがあります。
- 🔊 学校や先生方の協力があるとスムーズにいくのでは？

### 連絡・調整



- 庁内部署や地域団体との調整**
  - 🗨️ 体験型のプログラムを実施している事業者をご存知ですか？
  - 🗨️ グリーンツーリズムとして実施しています。これがチラシです。
  - 🗨️ 事業者のアンケートに協力をお願いしたいのですが…。
  - 🗨️ どんな内容の調査ですか？詳細を教えてください。

### 学校との調整

- 🗨️ 保護者のアンケートを実施したいのですが…。内容は…、結果の活用については…。
- 🗨️ 校長会で協力依頼をしておきます。
- 🗨️ チラシができたので配付の協力をお願いします。対象学年は4年生以上になります。明日には学校に届きます。
- 🗨️ 担当の先生に説明しておきます。

### チームの振り返り



- 🗨️ SDGsやエシカル消費への気づきがつかい手だけでなく、つくり手にもあったんですね。
- 🗨️ 子供だけでなく、保護者の気づきも大きいです。
- 🗨️ 家庭での消費者教育の機会がもちにくい児童養護施設対象のプログラムは、今後広げたいですね。

# つかい手の実態調査

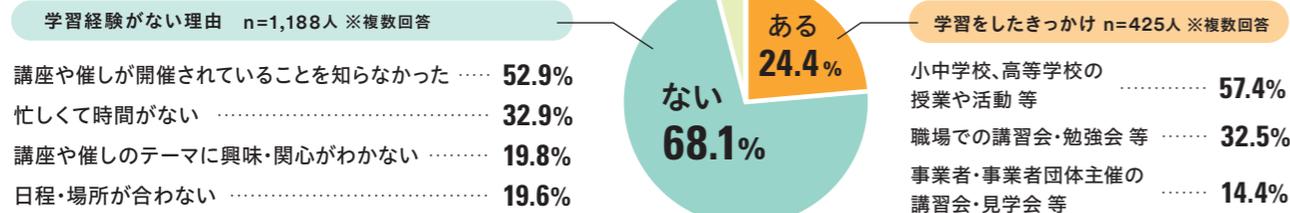
詳細はWEBで

調査地域：浜松市 | 調査時期：2020年7~8月 | 調査方法：小学校を通じて保護者に調査票を配付し郵送返送  
 調査対象：市内13小学校の4~6年生児童の保護者 | 有効回収数(率)：1,759票(56.0%) うち、外国人保護者は14票(15.4%)

## 保護者の消費生活に関する学習状況は？

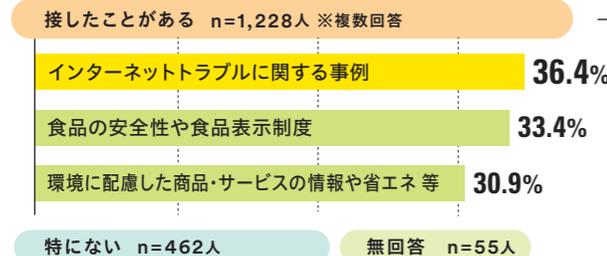
### Q 消費生活に関する学習経験はありますか？

n = 1,745人

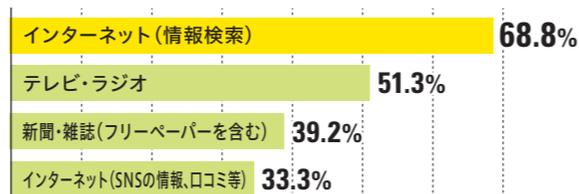


### Q 接したことがある消費生活に関する情報

n = 1,745人



### Q 主たる情報源



#### 調査結果から分かったこと

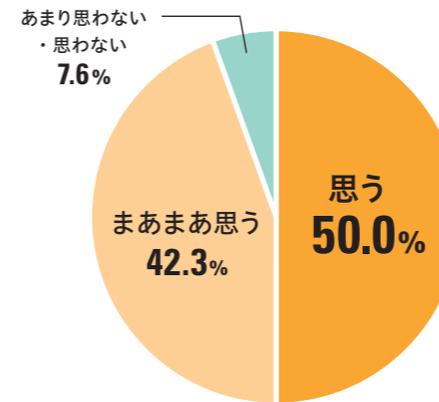
- 保護者の4分の3が消費生活の学習経験がないと回答していた。経験があるとした保護者でも学校教育を終えると限られた機会しかない。
- 情報の入手先はインターネットが主流である。



## 家庭における消費者教育の実施状況は？

### Q 親子と一緒に学ぶ機会は重要だと思いますか？

n = 1,759人



### Q 親子で訪ねてみたい体験プログラム

n = 1,759人 ※複数回答



#### 調査結果から分かったこと

- 環境への影響やお金の大切さなど、家庭で消費者教育が行われているが、自分が忙しくて時間がないなどの課題を7割近い保護者が抱えている。
- 親子と一緒に学ぶ機会を重要だと感じ、農業や食品工業、伝統工芸・文化のテーマに人気がある。



# つくり手の実態調査

詳細はWEBで

調査地域：浜松市 | 調査時期：2020年7-8月 | 調査方法：会員企業に調査票を配付し、メール返送  
 調査対象：「浜松市SDGs推進プラットフォーム」会員企業 161社 | 有効回収数(率)：59社(36.6%)

回答企業59社の属性

情報通信・サービスその他	30.6%
建築・資材	27.2%
商社・卸売	6.7%
小売	5.2%
食品	5.2%
その他	25.1%

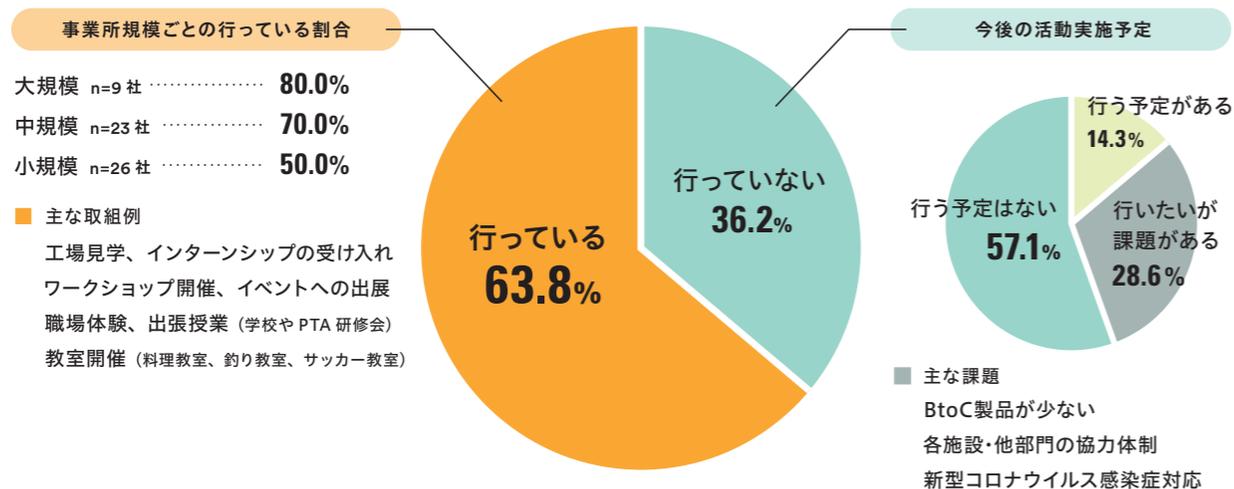
※ 複数回答

## 事業所のサステナブル経営に向けた取組



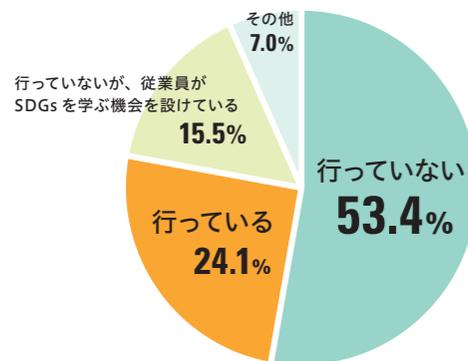
### Q 消費者とのコミュニケーション活動について

n = 58社



### Q 従業員研修の実施状況について

n = 58社



#### 従業員研修に関するニーズ Best 3

- 1位 先行事例や成功事例の紹介
- 2位 SDGsの基本的な考え方を理解する
- 3位 補助金の交付・税制優遇等の紹介

#### 従業員研修をする際に必要なこと Best 3

- 1位 社内研修への専門講師の派遣
- 2位 研修用の教材の提供
- 3位 セミナー等の外部研修の開催



## 実践編

プログラムの実践に向けたノウハウ



入門編



実践編

消費者教育プログラムの実践フロー  
手順に沿って「つくり手」と「つかい手」をつなぐ消費者教育  
の場をつくり、実施後には広く発信をしましょう。



新しくて発見がいっぱいのプログラムです。  
地域の特性をいかした展開の可能性が期待できますね。  
東 珠実 | 福山女学園大学教授



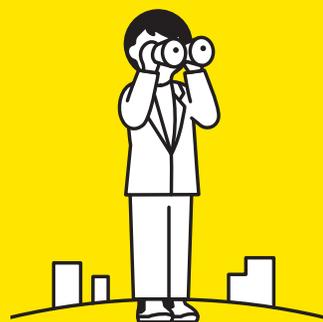
# 1 事業者を選ぶ

✓ 「つくり手」のこだわりをフォーカスする

✓ 小学生と保護者に興味があるテーマにする

✓ パートナーとしての協働の可能性がある

プログラムの「つくり手」となる事業者を決めます。「つくり手」としてのこだわりがあり、小学生と保護者に興味があるテーマにつながる事業者の候補を探し、ヒアリングをして決定します。SDGs達成に向けた取組や協働への意識、体験の可能性などを具体的に聞き取り、総合的に判断します。



## 事業者決定のプロセス

### step 1 候補を探す

注目ポイント ▶ 「つくり手」としてこだわりがある  
 ▶ 小学生と保護者の関心が高いテーマになりそうか  
 参考：調査結果 (p.11)

情報入手先 ▶ チームのメンバー (p.8)、関係課、関係団体・事業者団体 等  
 浜松市の場合のキーワード  
 やらまいかブランド (商工会議所)、浜松市SDGs推進プラットフォーム、グリーンツーリズム

### step 2 ヒアリングする

ヒアリング項目 (3段階評価)	事業者A	事業者B	事業者C
1 SDGs達成に向けた取組 3…ある 2…ややある 1…ない	3		
2 協働への経営者等の意識 3…ある 2…ややある 1…ない	2		
3 生産現場見学 3…できる 2…工夫次第でできる 1…できない	1		
4 体験 3…できる 2…工夫次第でできる 1…できない	2		
5 売り場 3…ある 2…条件次第である 1…ない	3		
評価	11		

### step 3 協働を依頼する

### step 4 決定する



地域には、SDGsを意識していなくても、こだわり・おもしろい企業がたくさんあります。その掘り起こしが地域の底上げにつながります。  
 湯口 哲世 | 浜松商工会議所理事

## 2 プログラムをつくる

✓ 売り場調査で「つくり手」に気づく

✓ 「つくり手」の“こだわり”を体験する

✓ 振り返りで自らの消費生活や地域を見直す

協働する事業者が決まったら、詳細な聞き取りをして、消費者教育の場となるようプログラムをつくります。売り場調査、「つくり手」の“こだわり”の体験、取材、振り返りを組み合わせて、「つくり手」の“こだわり”を知り、考え、自らの消費生活や地域を見直す機会にします。



## つかい手のプログラム

流れに沿って、事業者及び参加する小学生と保護者の状況に応じてプログラムをつくります。

売り場からのスタートが魅力。つくり手のこだわりを知って体験することが、責任あるつかい手を育てることにつながります。  
野中 正子 | 浜松市消費者団体連絡会会長

### オリエンテーション

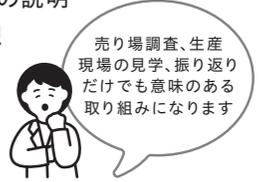
▶ プログラムのねらいを共有し、予想を立てる

- 例  SDGs目標12の解説  「つくり手」と「つかい手」の解説  SDGs調査隊の説明  
 SDGs調査隊の任命式  取材の練習  クイズで予想

### 売り場調査

▶ 「つくり手」の商品とその販売状況を調べる

- 例  種類  価格  原材料  商品をPRするポップ  お店の人への聞き取り



### 調査 生産現場の見学・体験

現場を見て、実際に体験して「つくり手」の“こだわり”を知る

- 例  生産現場の見学  
 実物に触れる  
 生産体験  
 予想と照らし合わせる

### 調査 「つくり手」のお話・取材

「つくり手」の“こだわり”を理解し、自分、国内、世界との“つながり”を探る

- 例  「つくり手」のお話  
 「つくり手」との質疑応答  
 世界とのつながり(世界地図)を確認  
 国内のつながり(日本地図)を確認  
 自分とのつながりを確認

### 振り返り

▶ 自らの消費生活や地域を見直し行動につなげる

- 例  アクション宣言・発表  エシカル消費の解説  本日の任務完了式  
 SDGs調査隊の缶バッジ授与  子供アンケート  保護者振り返りアンケート



## SDGsとの関連

「つくり手」の事業者の“こだわり”や“つながり”を引き出しながら、SDGsとの関係を探り、プログラムをつくっていきます。丁寧な聞き取りの過程が双方の理解を深めます。

♡ こだわり	
引き出しポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 経営者等のおもい</li> <li>✓ 独自の取組</li> <li>✓ 「つくり手」としての、人・社会・地域・環境に対する責任</li> <li>✓ 消費者や地域、未来へのおもい</li> <li>✓ 従業員への期待</li> </ul>
具体例	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 安心・安全にこだわって育てた豚だからこそ直接消費者に届けたいというおもいから6次産業に取り組む。</li> <li>□ 良い農産物をつくり続けることで共感をする仲間ができて地域の活性化につながった。</li> <li>□ 誰もが働きやすい職場をめざし改善を繰り返す。それを強みに次世代につながる持続可能な農業経営をしたい。</li> <li>□ 地域で発展した伝統工芸の技を誇りに受け継ぎ、現代にあった形で消費者に発信し広めたい。学校への出前授業なども積極的に受けている。</li> </ul>

💡 つながり	
引き出しポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ サプライチェーンにおける世界、国内、地域とのつながり</li> <li>✓ 消費者とのつながり</li> <li>✓ 地域とのつながり</li> <li>✓ 事業者間でのネットワーク</li> </ul>
具体例	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 豚のえさのトウモロコシは、アメリカの穀倉地帯で生産されたものをパナマ運河を経由して運ぶ。</li> <li>□ 野菜の種はチリ。種の原因国を分散して種の絶滅に対するリスク管理をする。</li> <li>□ 遠州綿糸のたて糸の原産国はブラジル、横糸はオーストラリア。染色は浜松から工場がなくなったため岐阜で行う。</li> <li>□ Kさんが糊付した糸だから織りやすい。自分の仕事があるのはKさんの仕事のおかげ。</li> <li>□ 「仕事の指示はだれでもわかることが大事。そうすることで障害を持った人も働くことができる」と福祉の方から教わった。</li> </ul>



## 現場の確認

📄 売り場の受け入れの可能性	
引き出しポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 商品のラインナップ</li> <li>✓ 受け入れ条件               <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間</li> <li>・人数</li> <li>・駐車場</li> </ul> </li> </ul>
具体例	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ○○店にはいつも店頭の商品が並んでいる。</li> <li>□ 調査の可否は店長に要確認。</li> <li>□ 一般の店舗での販売は限定的。</li> <li>□ 開店直後だとお客さんも比較的少ないので調査の受け入れが可能。販売員も、対応できるように調整ができる。</li> </ul>

📄 生産現場の状況と体験の可能性	
引き出しポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 既存の見学ルート</li> <li>✓ 「つくり手」の生産現場</li> <li>✓ 「つくり手」の“こだわり”が実感できる体験</li> <li>✓ 小学生が可能な体験</li> </ul>
具体例	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ いつも実施しているソーセージづくり体験に豚の赤ちゃん抱っこを組み合わせることができそう。</li> <li>□ ユニバーサルな作業はだれでもできるはずだから小学生に体験して実感してもらおう。</li> <li>□ 今まで見学を受け入れたことはないが、職人さんの工房で作業の様子を見て、作業の前と後の糸や織った布に実際に触れてもらいたい。可能か調整してみる。</li> </ul>

既存の見学ルートがあれば活用したいですね



### 実施に向けた調整事項

可能な日時	対象学年
-----	-----
受け入れ可能な人数	移動手段
-----	-----

このプログラムは、消費と生産の裏側にある課題に気づき、つくり手の仕事の意味や意義を理解していくことにあります。  
下澤 嶽 | 静岡文化芸術大学教授

# 3 準備する

- ✓ プログラムを事業者と共有する
- ✓ SDGs調査隊ノートをつくる
- ✓ ワクワク感を演出するグッズをつくる

プログラムの流れが決まったら、「つくり手」となる事業者と共に実施に向けて準備します。募集チラシ、SDGs調査隊ノート、体験の材料、ワクワク感を演出するグッズなどもあわせて用意します。準備のプロセスは、事業者が自らの事業をSDGsの視点でとらえ直す機会ともなります。



## 事業者との共有

プログラムの内容や準備物を「つくり手」である事業者と一緒に考えます。「つくり手」のこだわりが参加者に伝わるよう調査内容を検討したり、実物や資料、写真などを用意したりします。リハーサルをして、「つくり手」のこだわりが伝わるか、それが「つかい手」の生活につながるかなどのほか、安全面、時間配分や作業分担なども確認します。



ソーセージづくりのリハーサル

### プログラム内容のチェックポイント

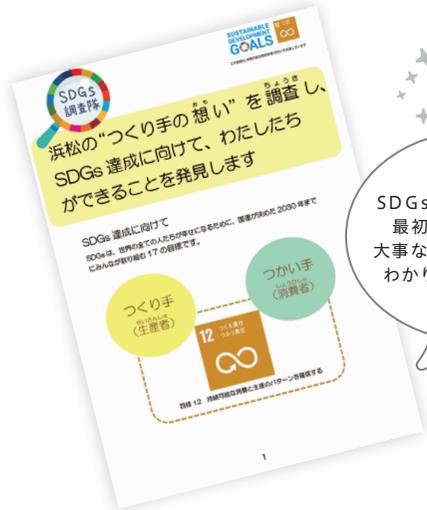
タイムスケジュール	<input type="checkbox"/> 取材・体験の時間配分 <input type="checkbox"/> 移動時間の確認
内容	<input type="checkbox"/> つくり手の話 (✓プログラムのねらいとあっているか ✓子供の理解度とあっているか) <input type="checkbox"/> 見学・体験 (✓手順は問題ないか ✓体験のサポートは必要か) <input type="checkbox"/> SDGs調査隊ノート p.24

### 当日の実施に向けてのチェックポイント

準備	<input type="checkbox"/> 体験に必要な物の確認と分担 <input type="checkbox"/> 参加者の服装と持ち物
会場	<input type="checkbox"/> 見学ルートの安全性 <input type="checkbox"/> 使用可能な時間 <input type="checkbox"/> 声の届き方・マイクの必要性 <input type="checkbox"/> 集合写真の場所 <input type="checkbox"/> 駐車場 等
役割	<input type="checkbox"/> 分担の確認

# SDGs調査隊ノートをつくる

プログラムに沿って、SDGs調査隊ノートを作成します。プログラムのねらいから、最後の振り返りまで、参加者が進行を確認できるように内容を構成します。わかりやすさが大切です。対象学年の幅が広いときは、漢字や用語に注意！



SDGs調査隊のねらいは最初に書きましょう。大事なことは、図を使ってわかりやすく伝えます。



子供が自ら調査できるように調査のポイントを書いておきます。



子供の考えを引き出す仕掛けをいれます。ここでは、自分がつくったソーセージに値段をつけて、その理由を考えました。

子供が感じたまま 思ったままに楽しく自由に書けるノートにしましょう！“気づき”を共有したり発信したりするのに役立ちます。  
中村 範子 | 静岡県生活協同組合連合会常務理事

**アクション宣言**  
振り返りで記入する「アクション宣言」はこのまま発表に使います。マジックで書くと共有しやすくなります。



# ワクワク感を演出するグッズをつくる

親子で参加するイベントで遠慮がちな子供たちを、様々なグッズで応援し、ワクワク感を演出します。



**例**  
子供用…… 缶バッチ、サコッシュ  
SDGs調査隊ノート、任命書  
全体用…… 横断幕、ツアーフラッグ

ワクワク感を演出するグッズは、初めて出会った子供たちの仲間意識を高め、調査隊としての活動への意欲を育む効果もありました。  
杉本 真弓 | 浜松市消費者教育コーディネーター



# 参加者を募集する

プログラムが決まったら、参加者を募集するための広報を行い受付準備をします。



**チラシ**  
校長会に協力依頼して対象となる学校に送付。関連する団体などに後援と配架の協力依頼。



**ポスター**  
駅(有料)、図書館、行政の関連施設など(無料)。保護者の目に留まる場所に掲示。



**行政の広報ツール**  
広報誌、保護者世代の情報源であるインターネット、SNS。



## 4 実施する

- ✓ 主役は「つくり手」と「つかい手」
- ✓ 双方のコミュニケーションをサポートする
- ✓ 子供と保護者が離れる時間をつくる

主役は「つくり手」と「つかい手」です。両者をつなぐ場であることを常に意識します。子供の素朴な疑問を拾ってコミュニケーションの機会をできるだけ多くつくります。子供と保護者がそれぞれに考えることができるような時間を設けましょう。



## つかい手のプログラム 食の安全・安心

「とんきい」は、豚の育成・加工・販売・レストラン経営に携わる事業者です。ここでは、食の安全・安心への“こだわり”を調査・体験します。

### オリエンテーション SDGs調査隊任命書授与



### 売り場調査



### 体験 豚の赤ちゃん抱っこ



### 体験 親子でソーセージ作り



### 「つくり手」のお話・取材



### 振り返り アクション宣言



### アクション宣言

ぼくは、物を買う時に、消費を責め意識していきたい、生産者がどのような思いでつくっているのかを考えていきたい。ぼくはふたも人間のように生きているので、ふただけでなく他の生き物も大切にしていきたいと思いました。

### 保護者のコメント

毎日の生活の中で「消費する」ことは欠かせません。パンフレットの中の言葉「お買い物は投票」ということに改めて気づき、どうせ消費するならば良い会社を応援していこう、という気持ちになりました。



# 🔍 つかい手のプログラム 伝統工芸

浜松に江戸時代から伝わる「遠州綿紬」の生産や販売に携わる「つくり手」を調査し、“浜松のつくり手のこだわり”を発見しました。

## 📌 オリエンテーション 予想を立てる



## 📄 売り場調査 ぬくもり工房



## 💖 生産現場の見学・取材 糸から布ができるまで

糊付(北川糊付)



整経(小野江織物)



機織り(戸塚織布)



検反(小野江織物)



## 💖 体験 つむぐ 布を織る



## 💡 「つくり手」のお話・取材 “つながり”や“こだわり”に気づく



## 🔄 振り返り

### 🌈 アクション宣言

作っている人々達の  
ことを考えて買ったり使ったり  
したいと思いました。

### 🌈 保護者のコメント

安くいろいろなものが手に入る時代ですが、  
本当にいいものは、ながくずっと使うことが  
できるので、これからは、いいものを大切に  
使いつけていきたいと思いました。

子供と共に普段の買い物について考えたり  
地域のことを知る良い機会になりそうです。  
保護者の学びも大きいと思います！  
三室 千菜美 | 保護者代表 zakka+fairtrade晴天

# 🔍 つかい手のプログラム ユニバーサル農業

京丸園は、地域の水資源を活用し「姫シリーズの  
青梗菜や三つ葉」を栽培している農園で、誰もが  
働きやすいユニバーサル農業をめざしています。  
その“こだわり”を体験します。



## 💖 体験 青梗菜の収穫



## 💖 体験 青梗菜の定植



## 💖 体験 トレイ洗い



## 🔄 振り返り

### 🌈 アクション宣言

ぼくはつかい手としてつくり手のことを考えるつかい手になりたいです。  
ぼくもずき社長と同じようにしょうかいのある人などでもくろくすれば  
できることか分かるのでこれからもしょうかいがあるかあれしよりたいと思いま

### 🌈 保護者のコメント

事業者が手間をかけてつくった商品が  
どういう所でどのように売られているかを  
知る事によって、社会のしくみを知る事に  
つながると感じました。



# つくり手のプログラム 従業員研修

✓ つかい手のプログラムを振り返る

✓ SDGsやサステナブル経営への理解を深める

✓ 「つくり手」・「つかい手」として、これからの行動を考える

従業員を対象に、つかい手のプログラムを振り返るとともに、SDGsやエシカル消費の理解を深め、サステナブル経営に取り組む意義を学ぶ研修を行います。従業員各自が「つかい手」としての自分に目を向け、日頃の消費行動についても振り返る時間をつくりましょう。

## step 1 企画する

- ✓ 日時 ✓ 人数 ✓ 場所
- ✓ 方法(集合研修・オンライン研修・研修用資料の提供)

## step 2 つくり手のプログラムを組み立てる

次のページを参考に、サステナブル経営とエシカル消費の理解が深められるようなプログラムを組み立てます。

## step 3 研修用資料を準備する

- ✓ つかい手のプログラムの映像や写真 ✓ 参加者からの感想
- ✓ 説明用のパワーポイント資料 ✓ ワークシート



## 当日の流れ

流れに沿ってプログラムを組み立てます。



### 目的の共有

- ▶ つくり手のプログラムの目的の説明
- ▶ つかい手のプログラムの概要の説明



### つかい手のプログラムを振り返る

- ▶ 写真や映像を使って、プログラム当日の様子を振り返る
- ▶ 参加者の感想やアクション宣言の紹介  
参加を通してつくり手の“こだわり”、自己と社会との“つながり”を認識したことで考えや行動に変化があったことを伝える



### SDGsの解説

- ▶ プログラムのテーマとなっている「SDGs」とは何かを解説
- ▶ SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」について解説  
「つくり手」と「つかい手」が共に社会的影響を考慮し協働することが求められていることを伝える



### サステナブル経営とエシカル消費の解説

- ▶ サステナブル経営とエシカル消費について解説
- ▶ 従業員各自も一人の「つかい手」でもあることへの気づきを促す
- ▶ サステナブル経営とエシカル消費の循環によってSDGs達成に近づくことを伝える



### 今後の活動を考える

- ▶ 従業員各自で、日頃の「つくり手」「つかい手」としての活動を振り返る
- ▶ SDGs達成に向け今後の活動を考える



## 浜松市の事例

ワークショップ型の集合研修を予定していましたが、緊急事態宣言により実施が困難となったため、研修内容を動画収録して、事業所ごとに視聴していただきました。



プログラムの目的

つかい手のプログラムの説明



アクション宣言の紹介

プログラムを通じた気づき



SDGsとは何か

つくる責任・つかう責任



「つかい手」であることへの気づき

サステナブル経営とエシカル消費の循環

### 研修動画 YouTube



# 従業員研修アンケート

研修後、「つかい手のプログラムの映像を見た感想」、「つくり手として、つかい手として、SDGs達成に向けてこれから取り組んでみたいこと」について回答してもらいました。

## 有限会社三和畜産 とんきい つかい手のプログラム 食の安全・安心

### つかい手のプログラムの映像を見て

- 未来を担う子供たちはもちろん、大人にとってもすばらしい体験だと思う。
- 「たくさん食べてつくり手を応援したい」という言葉がとても印象的だった。

### つくり手として

- 家庭の生ごみを持ち寄り、バイオガスに回して、少しでも環境に配慮した取り組みをしたい。
- つくり手の気持ちや考え方を多くの人に知ってもらえるよう、SNSなどを使って発信してみたい。

### つかい手として

- 生産者の気持ちに立ち、積極的に地元の商品を買っていきたい。
- 身近な所で、何かの保全活動に参加してみたい。会社でそういった活動に参加できる機会を設けてもらえたら積極的に参加してみたい。

家庭のゴミもバイオガスに回す」というアイデアもあがり、今回の研修は従業員にとって、今後の仕事や生活への良いヒントになったのではないかと思います。(代表取締役 鈴木さん)

## 京丸園株式会社 つかい手のプログラム ユニバーサル農業

### つかい手のプログラムの映像を見て

- どんな手間がかかって、消費者の口に入っているのかが分かってもらってよかった。生産者としてより安心安全な野菜を栽培しなくてはと思った。

### つくり手として

- 食品ロスをなくすために加工するなどして貢献したい。
- 商品化できない野菜の残さやちんげんの培土のリサイクル。

### つかい手として

- 食べ残しをしない(ロスを減らす)。
- より安心安全な野菜の栽培をしている農園の情報を知る。



研修後、B級品廃棄青梗菜を使って、ちんげん餃子を作りました！  
(代表取締役 鈴木さん)

## ぬくもり工房 つかい手のプログラム 伝統工芸

### つかい手のプログラムの映像を見て

- 興味を持って生地に触れている姿が嬉しかった。
- 職人さん達の「おもいを伝えたい、見に来てもらいたい」という思いが伝わってきた。

### つくり手として

- 消費者側の意識をもって、職人の励みになる意見を伝えたい。
- 店全体で平等な接客を心がけたい。男女や年齢の区別なく、誰もが良いなと思える商品作りをしたい。

### つかい手として

- 自分が使っている商品の制作過程を出来るだけ知るようにしたい。
- 綿紬を使ったミツロウラップの使用。



今回の研修から、本当に大切なモノに気づいてくれた方が増えたのではと感じました。  
(代表取締役 大高さん)

## 小野江織物株式会社 つかい手のプログラム 伝統工芸

### つかい手のプログラムの映像を見て

- 消費者目線で見たことがなかったので新たな発見があり新鮮だった。
- 子どもたちの興味深い様子、つくり手の方々の仕事にける情熱に感銘を受けました。

### つくり手として

- 伝統工芸品という観点から、次の時代の担い手のお手伝いができるようなことはないか、考えてみたい。
- もっと仕事に対しての関心を広げて、生活に支援が必要な人にも製造業の仕事に興味を持ってもらえるようにしていきたい。

### つかい手として

- 他の産地の伝統工芸にも興味を持つようになりたい。
- 物を購入する際には、生産地などを確認して万物にやさしい商品を購入して大切に愛着をもって消費していきたい。



研修を通して、生地が出来る工程や様子を社内で共有でき、SDGsについても理解してもらえたと思います。  
(生産管理担当 松浦さん)

消費者との共創によるサステナブル経営につながる優れた教育プログラムです。

坂倉 忠夫 | 公益社団法人消費者関連専門家会議専務理事



# 児童養護施設で実施するには



児童養護施設職員

児童養護施設は、児童福祉法に定められた児童福祉施設で、家族による養育が困難な2歳から18歳の子供を養育しています。「自立して生活できる力」を育むことを目的に都道府県が設置しています。

全国には600か所を超える施設があり、2万7千人以上の子供が暮らしています。「自立して生活できる力」を育むために、行政などによる消費者教育の場の提供が期待されていますね。



スギタさん

## プログラム実施に向けて

### step 1

#### 提案と調整

「SDGs調査隊」のプログラムを提案し、意見交換を行い、実施にむけた調整をする。

- 1 18歳退所を見通した消費者教育の内容
- 2 生育経験や特別な支援を必要とする子どもへの配慮の必要性の確認
- 3 金銭管理を含むキャリア教育の視点
- 4 施設の生活に対応したプログラム内容への変更

### step 2

#### 当日に向けての確認

施設の要望とつくり手(事業者)との調整を行い、プログラムのねらいや見学・体験内容・時間配分などについて確認する。

例



いつも食べているソーセージの銘柄が分からないのです！



売り場調査の質問を、「食べてみたいソーセージはどれ？」にしましょうか？



ぶたさん抱っこに不安を抱く子もいます！



うん！うん！



18歳退所なので就職に向けたキャリア教育が重要！



うん！うん！

児童養護施設で成長する子ども達が社会で自立をする時のために、消費者教育の機会が増えていくと良いと思います。今回は、できなくて残念でした。ぜひ実施したいです。

石塚 猛裕 | 社会福祉法人葵会理事長

※ 本プログラムは、「新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言」の発令により中止しました。





## 5 評価する

✓ ねらいの達成度を分析する

✓ チームで効果検証をする

✓ 結果を次に活かす

今回のプログラムが、エシカル消費やサステナブル経営を促進する消費者教育の場となっているか効果検証を行います。何が効果的だったかを、さまざまな成果から分析しチームメンバーの意見を聞いて、今後のプログラムに反映させましょう。

評価項目(3段階評価)	3…できた 2…ややできた 1…あまりできなかった	評価
<b>つかい手の成果</b> ✓ アクション宣言 ✓ 子供アンケート ✓ 保護者振り返りアンケート ✓ 聞き取り	つくり手(事業者)のこだわり気づいた	
	世界、日本、自分とのつながりに気づいた	
	自らの消費行動を振り返りエシカル消費につながった	
<b>つくり手の成果</b> ✓ 従業員研修アンケート ✓ 「つくり手」の聞き取り ✓ 聞き取り	つかい手としての消費行動を振り返ることができた	
	自らの事業をSDGsの視点でとらえることができた	
	サステナブル経営についての気づきにつながった	
チームメンバーの聞き取り	消費者教育を促進する多様な主体の地域連携がくれた	

アンケートの質問項目を工夫し、自分の言葉で具体的に書いてもらえるようにできるといいですね。  
 太田 克彦 | 浜松市消費者教育コーディネーター



## 6 発信する

✓ 成果を多くの人に届けよう

プログラムに参加できる人は限られます。その成果を広報誌やWebサイト、SNSなどを活用して広く発信することで、さらに消費者教育が広がります。「つくり手」や「つかい手」にも協力してもらい、多くの人に届けましょう。



# 地域でやってみたい 教えて！ スギタさん



**Q1** 新しいプログラムを一から企画するのは、大変です。  
何か良い方法はありますか？

**A** 既存の工場見学や体験、イベントなどを活用して企画してはいかがでしょうか。例えば、農産物の収穫体験がある場合、そこに農家のお話と売り場調査を組み合わせ、最後に参加者から感想を聞くだけでも、消費者教育のプログラムになります。まずは地域にある取組から探してみると良いですね。

**Q2** 学校と連携して取り組んでみたいのですが、可能性はありますか？

**A** 文部科学省は、新しい時代を生きる子供の資質や能力を育てるために社会と連携・協働することが大切だとしています。その連携・協働先には、行政やNPOなどがあげられています。教育委員会や学校に働きかけて、プログラムの構成や見学・体験に関する学校での工夫を教員にヒアリングし、アドバイスしてもらうのも良いでしょう。このように組織や人をつないでいくのもコーディネーターの役割です。

**Q3** プログラムの参加を親子としていますが、理由はありますか？  
また低学年でも可能でしょうか？

**A** 学校では子供を対象に消費者教育を行っていますが生活に活かされにくい傾向にあります。また、保護者は学校を卒業してから消費者教育を学ぶ機会が少ないのが現状です。ここでは、保護者と子供が共に学ぶ場をつくり、家庭での消費生活に活かしてもらうことを期待しています。今回のプログラムは、体験を通じた論理的思考ができて社会とのつながりも考えられる小学校4～6年生を対象としました。小学校1～3年生でも体験を通して素直に感じることができ、一緒に参加する保護者の気づきも期待できるので対象とすることも可能です。



令和2年度地方消費者行政に関する先進的モデル事業 | 消費者庁委託事業

## 事業者見学を通じた地域における消費者教育の推進

主催：公益財団法人消費者教育支援センター 協力：浜松市

検討委員会	静岡文化芸術大学教授 …………… 下澤 嶽 静岡県生活協同組合連合会常務理事 …………… 中村 範子 浜松商工会議所理事 …………… 湯口 哲世 浜松市消費者団体連絡会会長 …………… 野中 正子 保護者代表(zakka+fairtrade 晴天) …………… 三室 千菜美 浜松市市民生活課くらしのセンター消費者教育コーディネーター …………… 杉本 真弓 浜松市市民生活課くらしのセンター消費者教育コーディネーター …………… 太田 克彦 消費者教育支援センター専務理事・首席主任研究員 …………… 柿野 成美
評価委員会	椛山学園大学教授 …………… 東 珠実 公益社団法人消費者関連専門家会議専務理事 …………… 坂倉 忠夫 社会福祉法人葵会理事長 …………… 石塚 猛裕
協力	有限会社三和畜産、京丸園株式会社、有限会社めくもり工房、小野江織物株式会社 北川糊付、戸塚織布、遠鉄ストア祝田店、遠鉄百貨店 本事業を推進するにあたり、徳島県、喜多機械産業株式会社、株式会社日誠産業、 四国大学短期大学部加渡いづみ教授、上勝町ゼロ・ウェイストセンター、上勝町企画環境課、 Saai dye studio、昭和楽器製造株式会社、株式会社栄商會にヒアリングにご協力いただきました。
事務局	公益財団法人消費者教育支援センター 専務理事・首席主任研究員 …………… 柿野 成美 主任研究員 …………… 庄司 佳子 副主任研究員 …………… 小林 知子 研究員 …………… 野中 奈美 研究員 …………… 河原 佑香

本事業の内容及び関連情報はWebサイトでも紹介しています。ぜひ、ご活用ください。



この冊子に掲載されているイメージ画像は  
使用許可を必要としないパブリックドメインです。

本件に関するお問い合わせ先



公益財団法人 消費者教育支援センター  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-17-14 全国婦人会館3階  
TEL : 03-5466-7341  
MAIL : nice-post@consumer-education.jp

